

# 介護施設契約 オンライン化

IT企業Keeper(東京)システム開発

介護事業者向けのIT代表取締役を務める航和発を手がけるKeeper(栗石町)が運営する盛岡(キーパー、東京都、佐々木航代表取締役)は、介護施設の入居契約をオンラインで行えるシステム「介護クラウド」を開発し、県内3施設で実証試験を行っている。入居希望者と施設職員が対面で行っていた手続きをオンライン上で完結できる仕組みで、両者の負担軽減につながる。6月末まで行い、本年度内の製品化を目指す。

実証試験は、佐々木氏が、約書をPDF形式で閲覧できる。画面は施設と共有さ



介護クラウドの画面を開き、運用状況を確認する佐々木航代表取締役(栗石町内の施設)

## 製品化へ本県で試験 手続きの負担軽減

れ、利用するケアプランなどを確認して「同意完了」の項目にチェックを入れることで締結される。

現在の契約では、希望者や家族らが施設に出向き、契約書に署名・押印する手続きが一般的だ。職員との読み合わせを含めると2時間近くかかっていたが、介護クラウドでの手続きはおおむね30分で済む。

自宅で行えるため、新型コロナウイルス禍で施設への立ち入り制限がある場合も円滑に手続きできる。インターネット環境があれば初期費用はかからず、利用料金は施設規模に応じて定額で月額数千円から数万円を想定する。

3施設ではこのシステムを利用して現在までに計5人が入居。家族からは「時間に余裕ができた」「空いた時間を有効活用できる」などの声が寄せられた。開発には県立大ソフトウェア情報学部の学生らも協力。実証試験の結果を踏まえて製品化する。

佐々木氏は「介護分野で遅れているデジタルトランスフォーメーション(DX)の先駆けとなるモデルを確立し、現場の負担軽減や業務効率改善につなげたい」と意気込む。